

[インデックスに戻る](#)

## 1.4. 空間ベクトル

### 1.4-2. 空間ベクトルと座標空間の利用

#### 1.4-2-1. 位置ベクトルとその利用

##### 1.4-2-1-1. 位置ベクトル

空間においても、平面のときと同様に、位置ベクトルを次のように定義する。点  $O$  を定めておくと、点  $P$  の位置はベクトル  $\vec{p} = \overrightarrow{OP}$  によって定まり、逆に点  $P$  の位置により  $\vec{p} = \overrightarrow{OP}$  も定まる。この  $\vec{p}$  を点  $P$  の位置ベクトルという。点  $P$  の位置ベクトルがベクトル  $\vec{p}$  であることを  $P(\vec{p})$  で表す。

平面ベクトルの場合と同様に、次のことが成り立つ。

内分点・外分点の位置ベクトル

2点  $A(\vec{a})$ 、 $B(\vec{b})$  に対して、線分  $AB$  を  $m:n$  に内分する点を  $P$ 、外分する

点を  $Q(\vec{q})$  とする。

$$\overrightarrow{AB} = \vec{b} - \vec{a}$$

$$\vec{p} = \frac{n\vec{a} + m\vec{b}}{m+n}$$

$$\vec{q} = \frac{-n\vec{a} + m\vec{b}}{m-n}$$

とくに線分  $AB$  の中点を  $M(\vec{m})$  とすると

$$\vec{m} = \frac{\vec{a} + \vec{b}}{2}$$

重心の位置ベクトル

3点  $A(\vec{a})$ 、 $B(\vec{b})$ 、 $C(\vec{c})$  を頂点とする三角形  $ABC$  の重心を  $G(\vec{g})$  とすると

$$\vec{g} = \frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{3}$$

(例)

3点  $A(\vec{a})$ 、 $B(\vec{b})$ 、 $C(\vec{c})$  を頂点とする三角形  $ABC$  について、辺  $BC$  を  $2:1$  に内分する点を  $P(\vec{p})$ 、辺  $CA$  を  $2:1$  に内分する点を  $Q(\vec{q})$ 、辺  $AB$  を  $2:1$  に内分する点を  $R(\vec{r})$  とし、三角形  $PQR$  の重心を  $G(\vec{g})$  とすると

$$\begin{aligned}\vec{p} &= \frac{\vec{b} + 2\vec{c}}{3}, \quad \vec{q} = \frac{\vec{c} + 2\vec{a}}{3}, \quad \vec{r} = \frac{\vec{a} + 2\vec{b}}{3} \\ \vec{g} &= \frac{\vec{p} + \vec{q} + \vec{r}}{3} = \frac{\frac{\vec{b} + 2\vec{c}}{3} + \frac{\vec{c} + 2\vec{a}}{3} + \frac{\vec{a} + 2\vec{b}}{3}}{3} = \frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{3}\end{aligned}$$

[インデックスに戻る](#)